

サイキン タロウ 様

1984年03月06日生まれ 男性

サイキンソークリニック

キットID：112000500010

今回採取日:2021年07月14日

質問票の採取日が未入力で、代わりに検体受領日を出力した場合は、*を付与しています

Mykinso Gut V4

腸内フローラ検査結果

ご自身の理想的な腸内フローラバランスの把握のためにも
定期的な検査をお勧めします。

※ご自身の理想的な腸内フローラバランスの把握のためにも、定期的な検査をお勧めします。

※本検査は、生活習慣を見直すためのヘルスケアチェックです。特定の疾患の診断や治療に直結するものではありません。

※本検査結果および検査結果ガイドに記載されている改善アドバイスは、菌叢改善や症状改善を保証するものではありません。

※基礎疾患等で既に医療機関で食事指導を受けている場合や、気になる症状がある場合は、医療機関を受診のうえ、医師の指示を優先してください。



Cykinso

細菌叢で人々を健康に

作成: 株式会社サイキンソー

作成日: 2021年08月03日

腸内フローラは、約1000種類以上の腸内細菌から構成されています。
まずは、腸内フローラ全体のバランスに関する概要結果を確認しましょう。

腸内フローラ(総合)判定

腸内フローラを構成する菌のバランスをもとに、A~Eの5段階で腸内環境を評価しています。D、E判定の場合は、バランス崩壊（ディスバイオーシス）が疑われるため、積極的な生活習慣の改善が必要です。理想的な腸内環境に近づけるよう、A判定を目指しましょう。

E

判定

バランスが悪い
(ディスバイオーシスの疑い)

前回: E 前々回: -

コメント

有用菌が全般的に少なく、バランスが偏った腸内フローラです。生活習慣を改善して、3ヶ月～半年後を目安に再検査をおすすめします。

腸内細菌の多様性判定

腸内細菌の多様性が高いほど、理想的な腸内環境に近づきやすくなります。腸内細菌の種類が豊富で、各菌がバランス良く存在していると、多様性が高くなります。



高い(良好)



平均的



低い

前回: 低い (4.71) 前々回: -

多様性スコア:4.65

コメント

多様性が基準値に比べて低めです。日頃の食生活でシンバイオティクスを意識して、多様性を高めましょう。

健康長寿菌判定

健康長寿の人の腸内に多い、「ビフィズス菌(酢酸産生菌)」と「フィーカリバクテリウム属(酪酸産生菌)」を十分量保有していたかどうかを判定しています。※各菌の詳細結果はp.4「個別注目菌の割合」を参照してください。



2種とも
豊富



1種のみ
不足気味



2種とも
不足気味

前回: 2種とも不足気味 前々回: -

コメント

ビフィズス菌(酢酸産生菌)とフィーカリバクテリウム属(酪酸産生菌)がどちらも不足気味です。p.4の個別注目菌の結果を確認しましょう。

腸内フローラは、全身の様々な疾患と深い関わりがあります。今回の腸内フローラの結果からみた各疾患リスクを確認し、将来の疾患リスクを減らせるよう生活習慣の見直しに繋がしましょう。

※あくまでも腸内フローラの観点のみから判定した疾患リスクであり、現時点での疾患の診断や今後の発症に直結するものではありません。
疾患の発症には腸内環境以外の様々な要因も関わっているため、予防や治療にはそれらの要因も踏まえた総合的な観点が必要です。

疾患別リスク判定

機能性下痢（IBS）



低



中



高

前回：中 前々回：-

コメント

腸内フローラのバランスから見た、機能性下痢（IBS）のリスクは中程度です。p.5のアドバイスを参考に、日頃の生活習慣を見直してみましょう。

血圧系ディスバイオーシススコア



低



中



高

前回：高 前々回：-

コメント

高血圧の人に似た腸内フローラの特徴があるため、今後注意が必要です。p.5のアドバイスを参考に、今後生活習慣を改善していきましょう。

糖代謝系ディスバイオーシススコア



低



中



高

前回：低 前々回：-

コメント

腸内フローラのバランスから見た、糖尿病のリスクは低いと考えられます。引き続きp.5のような生活習慣を意識しましょう。

大腸画像検査おすすめ度



低



中



高

前回：高 前々回：-

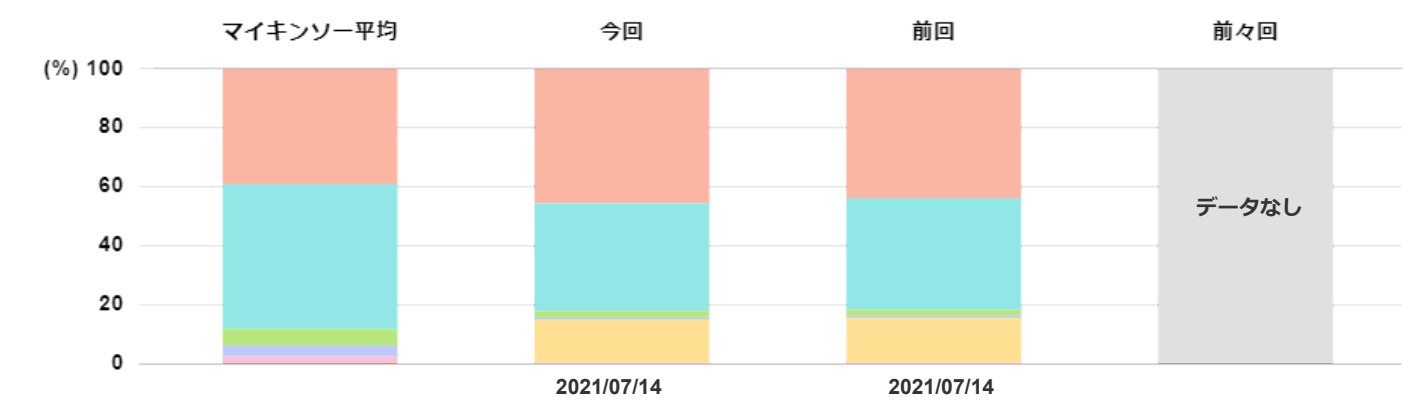
コメント

大腸がんや大腸ポリープとの関連が示唆されている菌（フソバクテリウム属）が多く検出されました。今後、大腸内視鏡検査や大腸CT等の定期的な受検をおすすめします。

腸内細菌を大きく分類した(「門」レベル)際の、あなたの腸内細菌の組成を示しています。
棒グラフの部分で、マイキンソー平均と組成と比較をしたり、複数回検査を受けた際は腸内細菌の構成が変化したかどうかを確認しましょう。

あなたの腸内フローラの組成

	マイキンソー 平均	今回	前回	前々回
バクテロイデーテス門 人間の腸内に非常に多く存在する腸内細菌の代表格。腸内免疫に重要な影響を与えていると考えられています。	39.18%	45.62%	43.94%	-
ファーミキューテス門 善玉菌として知られる「乳酸菌」と呼ばれる菌グループや、悪玉菌の代表格である「ウェルシュ菌」など、多様な菌種が含まれる門です。	49.14%	36.65%	37.85%	-
アクチノバクテリア門 善玉菌として有名な「ビフィズス菌」はここに含まれます。	5.59%	2.20%	2.09%	-
プロテオバクテリア門 腸内細菌として有名な「大腸菌」や、「ピロリ菌」、「カンピロバクター属」などが含まれる門です。	3.82%	0.71%	0.76%	-
フソバクテリア門 大腸がん発症リスクのバイオマーカーとして知られる「フソバクテリウム属」が含まれる門です。	0.00%	14.57%	15.20%	-
その他 腸内に存在するその他の門の菌の合計を表しています。	2.27%	0.25%	0.16%	-
前回からの組成の変化				



菌のなまえの豆知識 ー生物分類学入門ー

全ての生物は、「界・門・綱・目・科・属・種」という7段階の階層（階級と呼ぶ）で分類される。各階級は、生物の持つ特徴ごとに複数のカテゴリ（分類群と呼ぶ）に分けられる。また、「界」の階級では動物界に分類されたものが、「門」の階級でさらに節足動物門、軟体動物門などと分けられるように、上位の階級の分類群から枝分かれするように下位の階級の分類群が存在し、下位の階級になるほどより細かい特徴によって分類される。

詳しくは→ <https://lab.mykinso.com/chisiki/classification/>

	【例】ビフィズス菌	【例】ヒト
界	真正細菌界	動物界
門	放線菌門	脊椎動物門
綱	放線菌綱	哺乳綱
目	ビフィドバクテリウム目	サル目
科	ビフィドバクテリウム科	ヒト科
属	ビフィドバクテリウム属	ヒト属
種	B.bifidum, B.infantis など	サピエンス種

個別注目菌の割合

ここでは、「有用菌」(腸内に十分保有していることが望ましい菌)や、「要注意菌」(腸内には多すぎないほうが望ましい菌)について、それぞれの個別菌の結果を示しています。なお、各菌の結果はすべて、今回検出されたあなたの腸内細菌全体に対する割合で示しています。

※ 男性の判定値(良好)

カテゴリ	検査項目	菌内訳(属レベル)	結果(割合)	前回 前々回	判定値(良好)
有用菌	酪酸産生菌	フィーカリバクテリウム アナエロスティベス クロストリジウム	9.24%	 要改善 改善の余地あり 良好	8.67% ~
	酢酸産生菌	ビフィドバクテリウム (ビフィズス菌)	1.17%	 要改善 改善の余地あり 良好	2.79% ~
	プロピオン酸産生菌	ディアリスター	0.00%	 改善の余地あり 良好	0.01% ~
	エクオール産生菌	アドレクルーツィア スラッキア	0.87%	 要改善 良好	0.01% ~
	やせ菌	クリステンセネラ	0.00%	 要改善 改善の余地あり 良好	0.19% ~
	アクティブ菌	ブチリシコッカス ラクノスピラ ロゼブリア モノグロバス	0.54%	 要改善 改善の余地あり 良好	1.80% ~

※ 男性の判定値(良好)

カテゴリ	検査項目	菌内訳(属レベル)	結果(割合)	前回 前々回	判定値(良好)
要注意菌	不摂生菌	フソバクテリウム	14.57%	 良好 改善の余地あり 要改善	0.00% ~ 0.09%
	エシェリキア菌	エシェリキア-シゲラ	0.24%	 良好 改善の余地あり 要改善	0.00% ~ 0.01%
	肥満菌	フソバクテリウム ステレラ メガスファエラ	14.57%	 良好 改善の余地あり 要改善	0.00% ~ 2.50%
	便秘関連菌	ビロフィラ	0.15%	 良好 改善の余地あり 要改善	0.00% ~ 0.10%

疾患別リスクに対するアドバイス

p.3「腸内フローラの観点からみた疾患リスク」に対し、各疾患リスクの低い腸内フローラに近付けるためのアドバイスを記載しています。リスク判定の結果が高いものほど、「あなたへのおすすめ度」も高くなっています。

※下記のアドバイスのみで疾患の予防・改善を保証するものではありません。腸内環境以外の要因も踏まえた予防策が必要です。

機能性下痢（IBS）スコア

あなたへのおすすめ度 ★★☆☆

現時点の腸内フローラでは、機能性下痢（IBS）のリスクは中程度です。
下記のような生活習慣を意識して、よりリスクの低い腸内フローラを目指しましょう。

- 適正体重（BMI18.5以上、25未満）を維持しましょう
- 定期的な運動習慣をつけましょう
- 果物やきのこ類、納豆などの食材を積極的に摂りましょう



血圧系ディスバイオーシススコア

あなたへのおすすめ度 ★★★

高血圧の人に似た腸内フローラの特徴があるため、今後注意が必要です。
今後の発症リスクを下げるために、下記のような生活習慣を積極的に取り入れましょう。

- 適正体重（BMI18.5以上、25未満）を維持しましょう
- 緑黄色野菜、牛乳・チーズ、未精製穀物（玄米、雑穀米等）等の食材を積極的に摂りましょう



代謝系ディスバイオーシススコア

あなたへのおすすめ度 ★★☆☆

現時点の腸内フローラでは、糖尿病のリスクは低いと考えられます。
現状を維持するために、引き続き下記のような生活習慣を継続しましょう。

- 適正体重（BMI18.5以上、25未満）を維持しましょう
- きのこ類や牛乳・チーズ等の食材を積極的に取りましょう
- 定期的な運動習慣をつけましょう



大腸画像検査おすすめ度

あなたへのおすすめ度 ★★★

大腸がんや大腸ポリープとの関連が示唆されている菌（フソバクテリウム属）が多く検出されました。
下記のような生活習慣を意識して、リスクの低い腸内フローラを目指しましょう。

- 果物、ヨーグルト・乳酸菌飲料、牛乳・チーズ、大豆製品、未精製穀物（玄米、雑穀米等）等の食材を積極的に摂りましょう
- 喫煙、飲酒習慣の見直しをしましょう
- 定期的な運動習慣をつけましょう
- 適正体重（BMI18.5以上、25未満）を維持しましょう



改善ポイント トップ3

p.4の個別注目菌（有用菌）の結果を改善するために、あなたにとって特におすすめの、具体的な改善実践方法やアドバイス上位3項目です。

1 果物の摂取

果物には、腸内細菌のエサになる水溶性食物繊維や糖アルコールが含まれています。特に旬を迎えた果物は、栄養価が高い傾向にあります。1日1品の果物が理想的な習慣です。



この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌（ラクノスピラ）
- やせ菌（クリステンセネラ科）
- アクティブ菌（ロゼブリア）
- アクティブ菌（モノグロバス）

2 運動

適度な運動は、自律神経に良い影響を与え、排便に必要な筋肉作りにも繋がります。マイキンソーデータでは、週に60分以上運動している人ほど菌叢が安定傾向にあります。



この生活習慣で改善できる菌

- アクティブ菌（ラクノスピラ）
- アクティブ菌（ロゼブリア）
- 酢酸産生菌（ビフィズス菌）
- アクティブ菌（ブチリシコッカス）
- アクティブ菌（モノグロバス）

3 牛乳・チーズの摂取

牛乳やチーズには、腸内細菌のエサとなるオリゴ糖が含まれています。マイキンソーデータでは、牛乳・チーズの摂取頻度が高いほどビフィズス菌の保有率が高い、というデータもあります。



この生活習慣で改善できる菌

- 酢酸産生菌（ビフィズス菌）
- やせ菌（クリステンセネラ科）
- アクティブ菌（モノグロバス）

改善ポイント トップ3

p.4の個別注目菌（要注意菌）の結果を改善するために、
あなたにとって特におすすめの、具体的な改善実践方法やアドバイス上位3項目です。

1 ヨーグルト・乳酸菌飲料の摂取

ヨーグルトや乳酸菌飲料は、腸内細菌として働く菌が含まれた食品（プロバイオティクス）です。腸内に定着しない傾向があるので、継続的に摂るようにこころがけましょう。



この生活習慣で改善できる菌

- 不摂生菌（フソバクテリウム）
- 肥満菌（フソバクテリウム）
- 肥満菌（メガスファエラ）
- 便秘関連菌（ビロフィラ）

2 果物の摂取

果物には、腸内細菌のエサになる水溶性食物繊維や糖アルコールが含まれています。特に旬を迎えた果物は、栄養価が高い傾向にあります。1日1品の果物が理想的な習慣です。



この生活習慣で改善できる菌

- 不摂生菌（フソバクテリウム）
- 肥満菌（フソバクテリウム）
- 肥満菌（メガスファエラ）
- 便秘関連菌（ビロフィラ）

3 玄米雑穀米の摂取

玄米や雑穀米などの未精製穀物には、腸内細菌のエサとなる食物繊維が、精製穀物より多く含まれます。玄米や雑穀米、全粒粉パンなども意識して選ぶようにしてみましょう。



この生活習慣で改善できる菌

- 不摂生菌（フソバクテリウム）
- 肥満菌（フソバクテリウム）
- エシェリキア菌（エシェリキア-シゲラ）
- 便秘関連菌（ビロフィラ）